1103 心内膜側全周性に^{99m}Tc-PYPの集積を呈する症例の臨床的特徴

安藤 弘、小林秀樹、百瀬 満、松本延介、
住吉徹哉、堀江俊伸、細田瑳一（東京女子医大心研）
日下部きよ子（東京女子医大放射線）

対象は,^{201}Tl^{99m}Tc-PYP dual SPECTを施行した連続430例のうち^{99m}Tc-PYPが心内膜側全周性に集積を呈した23例。 内訳は急性心筋梗塞(MI)10例,不安定狭心症(UAP)5例,冠攣縮性狭心症(VSA)2例, アミロイドーシス2例,肥大型閉塞性心筋症1例,心筋炎2例,鬱血性心不全1例。MIは5例が多枝病変で,4例が1枝病変。1枝病変のうち3例は心尖部を巻き込む大きな前下行枝が責任冠動脈であった。また心電図上Q波MIが3例,非Q波MIが7例であった。UAPでは4例が多枝病変で,他の1例は大きな前下行枝が責任冠動脈であった。VSAでは2例ともmultispasmを認めた。

1104 心筋シンチグラムにおける^{201}TlClと^{123}I－MIBGの心筋集積の比較。

小林 満, 佐々木一文, 田村清彦, 加藤弘毅,
佐藤公彦, 戸村則昭, 渡会二郎（秋大 放）

心筋シンチグラムにおいて^{201}TlClと^{123}I－MIBGでは心筋への集積に解離のみられる症例がある。^{201}TlClと^{123}I－MIBGを用いての二核種同時収集による運動負荷心筋シンチグラフィ（SPECT)が施行され, 同時期に冠動脈造影,心エコーが施行された７０例につき^{201}TlClと^{123}I－MIBGの心筋への集積を比較検討した。解離の見られた部位について冠動脈造影所見と心エコー所見を参考に虚血との関係を検討した。

1105 虚血性心疾患における^{201}Tl心筋SPECTによる心筋摂取率の検討

池田浩志郎、鈴木健（豊川市民病院 内）岩瀬幹生（豊川市民病院 放）飯田昭彦（名古屋市リハセン）

エルゴメーターによる低レベル運動負荷併用dipyridamole負荷心筋SPECTを行った患者に対して、^{201}Tlを静注前にカウントし、静注後の短軸断層像の心筋カウント比から心筋摂取率を求め、検討した。 心筋梗塞群は負荷心筋SPECT上正常群に比して総心筋摂取率は低下していたが、非梗塞部の単位心筋あたりの平均摂取率では、特に傾向はみられなかった。狭心症群のPTCA前後での比較では、総心筋摂取率は上昇したが、健常部位での摂取率がかえって低下する症例もみとめられた。^{201}Tlの心筋摂取率の測定により、血行再建術前後での心筋への血流分布変化を定量的に観察できると考えられた。

1106 陳旧性心筋梗塞(OMI)における運動負荷Tl-201心筋SPECTと心室遅延電位(LP)の検討

川本洋子、小野邦春、石川連三、井上健彦、秋元奈保子、塚原玲子、上嶋権兵衛(東邦大2内)、山崎純一、森下健(同1内)

OMI 12例に運動負荷Tl-201心筋SPECT、加算平均心電図を施行し、梗塞範囲および梗塞部位とLPの関係について検討した。梗塞範囲の判定には視覚的評価とBull's eye法による定量的評価を用いた。LPはSimsonらの方法を用いTFD≧130msec、RMS40≦15μV、LAS40≧40msecのうち２つ以上を満たすものを陽性とした。LP陽性群では梗塞範囲の広いものが多く、LP陰性群では、梗塞範囲の狭いものが多い傾向がみられた。また、LP陽性群には後下壁梗塞が多く、LP陰性群では前壁中隔梗塞が多い傾向が見られた。

1107 甲状腺機能低下症、脳内出血、全身性進行性皮膚硬化症におけるI-123 MIBG心筋 SPECT像の検討

真家伸一、秋月哲史、＊奥山康男、美田誠二、
今西智之、竹中信夫、松岡康夫、入交昭一郎
（市立川崎病院内科、＊同放射線科、**同脳神経外科）

I-123 MIBGを用い心機能にて明らかな異常を認めない甲状腺機能低下症(Hypothyroid) ５例、脳内出血(ICH) ２例、全身性進行性皮膚硬化症(PSS) 17例においてMIBG心筋 SPECT像を撮像、同時に撮像したTl-201心筋 SPECT像と比較検討した。 Hypothyroid, ICHにおいては全例でMIBG心筋 SPECT像で後壁を中心に集積低下がみられTl-201心筋 SPECT像と解離がみられた。PSS では17例中７例にてMIBG心筋 SPECT像で同様の集積低下、Tl-201心筋 SPECT 像との解離がみられた。 Hypothyroid, ICH, PSS において、中枢性および心筋局所における心筋交感神経系機能異常の存在が疑われた。

1108 家族性アミロイドポリニューロパチーにおける123-I MIBG心筋SPECT

伊藤敦子、曽根脩輔、中西文子、長谷川実、小口和浩、春日敏夫（信大放）、横田憲一（信大中放）

家族性アミロイドポリニューロパチーの患者では、アミロイドの沈着により、末梢神経や自律神経が障害される。123-I MIBG心筋SPECT２例を行ない、心筋の交感神経障害を示す所見が認められたので報告する。

123-I MIBGを111MBq静脈注射した後、15分後にearly image、4時間後にdelayed imageを撮像し、さらに、２核種同時収集法で安静時201-Tl 心筋SPECTも撮像し、両者を比較した。

201-Tl 心筋SPECTでは、正常な集積が認められたが、123-I MIBG心筋SPECTのearly imageとdelayed imageでは、広範囲に著しい集積低下が認められ、交感神経末端の障害と考えられた。

Presented by Medical*Online